

芽出しまき付によるスギまき付

目 的

春まき付の発芽を促進し、まき付苗を大苗養成するため。

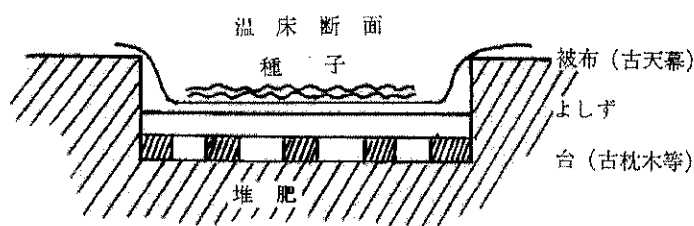
実 行

使用種子 合川署 羽根山産 秋田スギ 発芽率 28.6% まき付量 5 kg

芽出し方法

イ 温床作り

わら堆肥を10日位前に切返し積み込んで、50~60の発酵熱になったら床作りをする。



積み込んだ堆肥の中央部を中心に、種子の量を勘案して3~4㎡を30cm位切り下げて均一にし、その床に古天幕等を利用して被布する。

ロ 床入れ

浸水種子が十分含水したら(4~5日)、ウスブルン1,000倍溶液に4時間浸水して十分消毒し、水切りして20%位の量の砂と混ぜて1cm程度に均一に敷込んで被布で包み、その上に藁を数枚掛けて放熱を防ぐ。

ハ 管 理

温床温度を25~30に保たせ、種子の膚が白っぽく乾いてくるようであれば撤水をし、温度の調整は藁や堆肥をもって加減する。

ニ まき付

床入れした種子は5日目頃より発芽を始めてくるので、前もってまき付床を作っておき、なお、当日の天気を予報等で確めて、晴天にまき付が行なえるよう温床温度を調節して、芽長1mm~1.5mmの発芽種子を30%以上にしてまき付を行なう。

ホ その後の管理

春まきと同様に扱う。

経過および結果

	まきつけ 月日	発芽開 始月日	発芽前 月日	発芽数	苗長 5.15	6.2	6.15	7.2	7.16	8.1	8.15	9.1	9.20
秋まき付	43.11. 14~20	44.4.19	44.5.6	1,075 ^本	1.0	1.5	2.0	2.5	4.0	5.0	7.0	9.5	10.5
春まき覆	44.4. 11~12	44.5.3	44.5.17	983	0.8	0.9	1.5	1.8	3.0	4.5	6.5	7.0	8.8
春まき芽 出し日覆	44.4.11	44.4.26	44.5.17	837	0.8	0.8	1.0	1.5	2.5	4.0	6.0	6.5	7.4
春まき無 日覆	44.4.12	44.5.3	44.5.17	983	0.8	1.0	1.5	2.0	2.5	4.0	5.8	6.0	6.7

考 察

この試験調査を4回実施し、苗木の成長度合いを比較してみても、年による差異は多少認められるが、このままのまき付育苗管理では、芽出ししてまき付ることによる大きな成長差は認められないようである。これは高温で芽出した種子が土壌の温度が、まだ十分高くなっていないのにまき付けられるので、その後の成長が中休みする状態となるためでないだろうかと思われる。そのためには、まき付床をビニール被覆して地温を高め、なお散水もできるようにしたらよい結果が得られるのでなからうか。しかし、当苗畑の場合であれば秋まき付が、従来の方法で芽出し以上の成長成績であり、また、春まき付も4月上旬に行なえるので、手数と経費の関係から、これ以上の継続試験は不必要であるかと思うので、消雪期がおそく4月下旬頃でなければ、春まきのできぬような箇所であれば、地温が高くなっており、芽出しまきも効果があると考えられるので、そのような苗畑で実験したら、よい結果が現われると思われる。